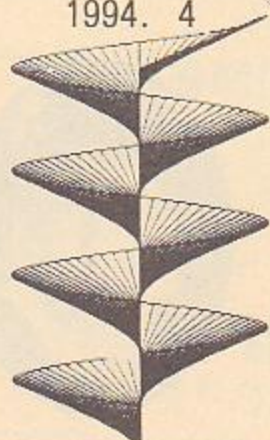


1994. 4



# はるにさす

No. 34

大阪工業大学図書館報

## 一条(ひとすじ)の光明

図書館長 影本彰弘



三月に入りますと、わが家の小さな庭に、どこから来るのでしょうか、鶯が来ます。とてもはにかんだ小さな声で、そして遠慮がちに、未だつたない調子で春の訪れを告げてくれます。

三月も中頃になり、桜のつぼみが膨らむ頃、どこで「学習」したのでしょうか、とても美しい声で誇らしげに、そして高らかに春の歓びを教えてください。毎年めぐって来るわが家の風物詩、鶯とともに春の足音が快く響いてきます。

そんなある日、一通の手紙が舞い込みました。「論文掲載決定!」。私の教えていた大学院生の投稿論文が採用されたというのです。思えば彼が日夜研鑽に努め、苦しんで苦しみぬいて研究した成果を投稿した論文…それがアメリカ化学会の物理化学分野の最高峰とされる学術雑誌 Journal of Physical Chemistry に掲載されるとの決定通知でした。

彼は驚き、歓び、そして次のようなことを感慨ぶかげに語りました。

「自分は高校時代落ちこぼれの生徒でした。大学に入ったものの目的もなく、ただ講義を受けるのみの毎日でした。ある日何気なく図書館に行き、色々な本をひもといたのがきっかけで、ある一つの問題に挑戦することになりました。そしてとうとうその問題を解くことに成功しました。その時の歓び、まるで一条の光明が差したかのようでした。大学院で自分で成し得た成

果が、このように権威のある学術雑誌に掲載されるのは、今後私の人生にとり大きな自信につながります」。

その彼は胸を張り、誇らしげに学位記を手にして、この春大学を巣立って行きました。

毎年忘れずに春を告げる鶯、自然はとても雄大で我々の知り得えない力があるようですが、でも学生諸君、我々人間も無限の力を備えた素晴らしい能力を持っています。この無限の能力を無駄にしないで、さらに磨いて行きましょう。勉強しましょう。そして本を読みましょう。

色々な知識を全身で吸収し、豊かな発想、豊かな人格の源を養って行きましょう。

さて、私ことこの度、総長・理事長藤田進先生ならびに学長櫻井良文先生のご厚情に甘え図書館館長に就任いたしました。

このうえは諸先生さらに歴代館長の築かれた伝統を重んじ、ご期待に添えるよう微力ながら頑張る所存でございます。

そして、先人の残した素晴らしい知識の宝庫・図書館、教職員および学生諸君にとり愛される図書館、親しみのある素敵な図書館になるよう日夜研鑽に努める所存でございます。

暖かいご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

簡単ですが、就任のご挨拶といたします。

(一般教育科教授・理学博士)

## 花ありてこそ・・・

建築学科3年次 中村 亘



『ぱぴろにくす』への寄稿を依頼されて、ついつい引き受けてしまった。図書館では、よく「希望図書購入制度」を利用させてもらっていたので、断りにくかったこともあった。

編集担当の方から、参考に過去の学生寄稿をいくつか見せてもらったが、みな立派な内容で、行き当たりばったりな読書体験しかない私などの出る幕ではないと思った。

行き当たりばったりと書いたが、日々の生活で必要を感じたらどんな本にでもチャレンジする。流行やお仕着せでなく、自らの意志と欲求で「本との出会い」を作っていく。本を読むということはそういうことだと私は思っている。

さて、さきほどの希望図書の話にもどるけれど、私の出す希望図書は、どうやら担当者泣かせだったようで、半分くらいは「特殊すぎる」「高価すぎる」等々の理由で、断られたように記憶する。

しかし、その中であって世阿弥の能楽論について考察した原太郎著『花伝書考』（未来社）を認めていただいたのはたいへん有り難かった。

私はかねがね世阿弥の美意識や生きざまに共感を抱いていたものだから、とりわけそのように思った。（もっともその本は品切れで、結局入荷しなかったが）。

それはともかく、その世阿弥の能楽論書とし

て最もポピュラーな『花伝書』（正しくは『風姿花伝』）には、つぎのような言葉がある。

「初心を忘るべからず」

（これは大切なことですね・・・）

「秘すれば花」

（よく女性にたいして、堪え忍ぶ女性像を表す言葉としてもちいられますが、本当の意味はそうではないのですよ）

そして、

「花無くては、萎れ所無益なり」

※「しおれたる」という趣は、「花」よりもさらに上の境地といえるが、さりとして肝心の「花」がなければ、しおれていても何の役にも立たない、やはりまずは「花ありてこそ」だという程の意味か？

（これは私のような、ちょっとヒネた人間向きなのかもしれない）

とにかく私は、この最後の「花無くては、しほれどころむやくなり」の言葉に無性にひかれるのである。

『花伝書』は、私の専攻する建築学にも、そしておおげさに言えばこの私の生き方にも深長な示唆を与えてくれるような、そんな「古典」のひとつだと思うのである。

※なお、世阿弥の能楽論をまとめた本として、能勢朝次『世阿弥十六部集評釈』（岩波書店）があるので、興味のある方にはおすすめします。

\*\*\*\*\*



## 日本改造計画

小沢一郎著

(講談社)

55年体制の終焉に、はまりの一冊。

「小さな脳しか持たない恐竜」のままでは日本は世界の激変に太刀打ちできない。

「顔のない日本」でいいはずがない。

著者小沢一郎は、日本の戦後政治の単一支配を38年間続けた元自民党議員であり、与党にいて日本の脱皮を実現できなかった無念な想いが

込められているようである。

著者は、「資源小国の日本が経済大国になり得たのは、自由な貿易によって富を集積できたからで…（略）…自由な貿易は、安全保障、政治、経済の各分野で、国際秩序が保たれていなければ成り立たない。日本はどんな努力をしても、国際社会の平和と安定と自由を維持しなければならない立場にある」と主張する。

そして、国民が真の自由を確立するためには、自分の価値観を持ち、自分の判断で行動できる「自立した個人」たらしなければならないと説く。

連立与党の最高実力者として、その剛腕ぶりは衆目の一致するところだが、反面これほど

図書館情報 『イントロジー専科』

研究室に入ったとたん、壁面一杯に“展示”された色とりどりのハガキ類にまずびっくり。

ざっと100枚近く、すべて英会話の受講生から送付されたもの。夏休みに体験したことを英語でハガキ1枚にまとめて提出するよう与えた“課題”なのだそうだ。

旅先からの絵ハガキに混じってマンガやイラストの入ったものもある。評判どおり先生の人気の高さがうかがい知れた。

Viva!ライアン先生

一般教育科講師スティーブン・M・ライアン先生(32)は、もとより大の親日家である。

《1984年母国のケンブリッジ大学で独仏文学を修めた後、大阪府教育委員会から英語指導教員として招かれ来日。以後府下の高校や近県の女子大などで教鞭を執り、90年4月に本学嘱託教員に。93年度から専任講師として英会話等を担当》



(学生からのハガキを背にライアン先生)

極端に毀誉褒貶の分かれる政治家も珍しい。

虚像が独り歩きをする側面もあるだろうし、一度この本を通じてじかに確かめてみるのも悪くあるまい。著者のビジョンを支持するか否かは別として、独りの政治家の新たな一面が見えてくることは請け合える。(K.F)

※ 第1図書室『話題の本コーナー』に配架

▶日本のものでは何が一番好きですか(との問いに)

「日本料理。なんでも好きです」(と即座に答えが返って来た。食べるだけでなく作るのも大好きだとのこと)

▶料理以外には?

「日本人形を集めたり、(演劇をやったこともあるので)文楽や能、歌舞伎などにも興味があります」

▶日本人についてはどの様にお感じですか、また、本学の学生の印象は?

「日本人はとても真面目で親切ですね。工大の学生さんもほんとうにマジメ。以前教えていた女子大の学生さんたちと比べて地味ですが、話題や関心事は多様だと思いました。でも、勉学に追われてフリータイムが少ないのが気になります」

▶ウチの学生も結構海外旅行に出かけますが、とくにご専門の語学の立場から何か一言…

「出発前に目的意識をしっかりと持ってほしい。語学研鑽のためならツアーでなく個人でトライされるようお勧めします。そして、欲張らず、一つの国をじっくりと、というのが望ましいと思います」

▶もう一つ、やはり語学の立場から、図書館の利用方法などを…

「図書館には英字新聞が何種類か置かれているようですが、語学力をつけるのには有効ですので、皆さんうんと読んでいただきたい。ただ、その際漫然と何でもかんでも読むよりは、ある種の目的を持って、マトをしぼって読む方が有効だと思われます」

▶どうも有り難うございました。

《最後に編集者から特別の「注!」》

先生が親日家になられた本当の理由は?それは来日後まもなく知り合い、結ばれた日本人の奥様(高校の先生)と、そしてこの日本で生まれた最愛のお嬢さま、このお二人を通じて、日本が大好きに〜なってしまうたのではないかと想像するのです。Viva, ライアン先生!

